令和６年３月２２日

日立理科クラブ通信

Ｎｏ．２２１

日立理科クラブ

「理科室のおじさん」を訪ねて２　日立市立油縄子小学校

今回は、油縄子小学校（窪木隆之校長）の長橋良敏（ながはし　よしとし）さんです。

長橋さんは群馬県安中市の出身です。群馬県の上州と呼ばれる地域は、冬になると日本海側から浅間山を越えて空っ風となって冷たい風が吹きます。その風と、女性は働き者だということから「かかあ天下と空っ風」という言葉がぴったりの土地柄で育ちました。

「理科室のおじさん」長橋良敏さん

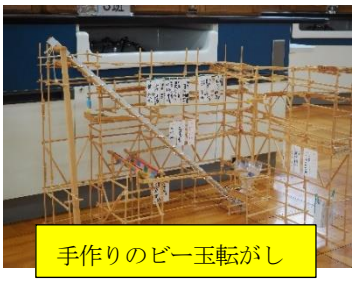
子どもの頃は、野原をかけめぐってチャンバラごっこをして遊びました。また、鉱石ラジオや真空管式ラジオを作ったり、壊したりするのが好きだったそうです。それが技術系に進むことにつながったのかなと話していました。

理科クラブに入る前は、日立製作所で、火力発電所で使う大型発電機の性能検査などを担当しました。就職したばかりの頃は手で行いましたが、その後、コンピュータを用いた自動化にも取り組みました。検査の技術を高く評価され、ドイツやオランダなど海外にも多く行ったそうです。

遊びに来た児童と

プラ板づくり

理科室のおじさんは、油縄子小学校が10年になります。学校では「理科先生」とか「理科おじさん」と呼ばれています。長橋さんは児童ととても仲がよく、取材したこの日も、１年生をはじめ多くの児童が遊びに来ました。子どもたちは、プラ板づくりや手回しヘリコプター、ビー玉転がしなど、長橋さんと遊びながらお話したりすることを楽しみにしているようでした。



手作りのビー玉転がし

名札がつけられた樹木

理科室では、片付けや整頓、理科花壇の運営などをしています。花壇の仕事をしていると、子どもたちが草取りや、種を取り終わったホウセンカを一緒に抜いて片付けてくれるなど手伝ってくれ、とてもうれしいと話していました。また、油縄子小には、理科室のおじさんとは別に、理科支援員さんもいますので、支援員さんと一緒に実験の準備をするそうです。

メディアセンター入り口

子どもたちには、「よごれた地球」をきれいにしていかなければならないことをいつも伝えたいと思っています。今、地球温暖化など環境問題が大きくなっています。地球は未来の子どもたちからの借り物ですが、汚したままで引き継ぐのではなく、もっとよくして引き継ぎたいと思っているようです。校庭の木々には植物の名前が付いた札がかかっています。長橋さんも協力して昨年度の卒業生がかけたそうです。木の名前を知り、大事にすることから、環境を考えていこうとしているのを感じます。

最後に油縄子小学校のよさを聞きました。いいところはたくさんあるそうですが、児童の歯の良さ、虫歯のなさは市内でトップレベルにあり、これは自慢できそうです。また、理科室の昼休みの遊びでは上級生が下級生の面倒をよく見る姿を良く見かけます。さらに、図書室（メディアセンター）の環境も素晴らしいです。子どもたちは素晴らしい環境の中で心豊かに育っているのを感じました。

理科室のおじさんを取材していると、昔、ＮＨＫで放送された「プロジェクトＸ」を思い出します。おじさん方は、難しいことに挑戦しながら一生懸命に働いて、世の中を照らしてきたように思います。子どもたちも先生方もぜひ話す機会を持ち、多くを学んで欲しいと思います。

文責　日立理科クラブ　作間　忍　日立理科クラブ事務所　TEL/FAX　0294-24-3104